

HONDA

2016年度 第1四半期

2016年4月1日▶2016年6月30日

株主通信





株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび、平成28年熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。Hondaは熊本において、二輪車、汎用製品の生産活動を中心に事業を展開しておりますが、地域社会の一員として、今後も熊本の皆様とともに、早期の復興に向けて取り組んでいく所存です。

さて、先日の株主総会でも申し上げました通り、私たちは「お客様に喜んでいただきたい」という想いのもと、Hondaらしいチャレンジングな商品の開発に取り組んでおり、そうした姿勢が企業価値をさらに高めることに通じると考えております。

その姿勢を形にした商品の一つが、今回、本文でご紹介する歩行訓練機器「Honda歩行アシスト」です。「歩く喜び」を、自らの力で、一人でも多くの方に取り戻していただくことを目指し、「チームHonda」一丸となって、研究・開発を進めた商品であり、今後は、日本での事業を軌道に乗せつつ、海外への展開も視野に入れ、商品内容の充実をはかる予定です。

株主の皆様におかれましては、今後とも、こうした将来を見据えた当社の事業にご理解、ご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

2016年8月

代表取締役社長 / 郷隆弘

連結業績ハイライト

(2016年4月1日～2016年6月30日)

売上収益

3兆4,717億円

前年同期比 6.3%減

営業利益

2,668億円

前年同期比 11.5%増

税引前利益

2,884億円

前年同期比 2.2%増

親会社の所有者に帰属する四半期利益

1,746億円

前年同期比 6.1%減

目次

株主の皆様へ……………01

特集……………03

Honda歩行アシスト

第92回 定時株主総会のご報告…09

新製品&Topics……………11

2016年度 第1四半期 連結業績ハイライト…13

事業の種類別セグメントの状況…15

所在地別セグメントの状況……………19

業績の推移(5ヶ年)……………20

要約四半期連結財務諸表の概要…21

株主様へのお知らせ……………25

株主優待制度を変更

2016年度 Hondaオリジナルフレーム切手

2017年 Hondaカレンダーのご案内

2016年度 株主様ご視察会

会社概要／株式の状況……………30

■ 特集：Honda歩行アシスト



自らの脚で自由に移動する喜びを。

装着者の歩行能力を引き出し、理想的な歩き方へと誘導するHonda歩行アシスト。

生活支援ロボットの国際安全規格「ISO13482」の認証を取得し、昨年11月に法人向けにリース販売を開始。

Hondaらしいチャレンジングな商品はどのように生まれ、事業化されたのかをご紹介します。



本田技研工業株式会社 取締役執行役員
汎用パワープロダクツ事業本部長 五十嵐雅行

歩行も移動のための一つのモビリティと捉え 自らの脚で歩く喜びを提供したい。

Honda歩行アシストは、Hondaにとって新しい分野への挑戦です。その技術の源流にはASIMOの二足歩行の技術や歩行研究があり、開発の起点には「技術は人のために」という創業以来変わることのない想いがあります。

1997年、国立社会保障・人口問題研究所は、日本では少子高齢化が急激に加速していき、約半世紀後には約3人に1人が65歳以上という超高齢化社会が到来する旨を公表しました。モビリティを提供する会社とし

て、そうした問題を抱える社会に対して貢献していきたい。そのために、これまでASIMOで培ってきた歩行研究の成果を活かすことで、自らの脚で移動し、自由に生活できる方を増やすお手伝いができるのではないだろうか。そのような想いから、Hondaは歩行も移動のための一つのモビリティと位置付け、Honda歩行アシストの開発をスタートさせました。

福祉機器展などで各施設の方やお身体が不自由な方にご意見を頂戴しながら、自らの脚で歩きたいという願いを叶えるモビリティとすべく、高齢者の方だけではなく、歩行に困難がある方のお役に立てるよう開発を進めてまいりました。

事業化の際には、コアメンバーこそ専任でしたが、兼務兼業でプロジェクトチーム的に参加したメンバーも多くいます。他の業務では得難い、お客様が喜んでくださっている場面に多く立ち会うことができたことで、彼らは知見のない分野に参入する難しさを感じながらも、高いモチベーションを維持することができました。

私自身、日ごろ杖をご使用されている高齢の女性が、「Honda歩行アシストを使用すると、杖を忘れて帰ってしまいそう」と、かくしゃくと歩く姿を拝見し、「役立つ喜び、もっと広げたい」という汎用パワープロダクツ事業本部の事業スローガンを直接的に体現できたことに喜びを感じています。

また、強く印象に残っているのが、その女性がおっしゃった「Honda歩行アシストは街で使用しても目立たず、オシャレ」という言葉です。自分の脚で歩く喜びには、機能はもちろんですが、装着したくなる見た目も重要だと気が付いた出来事でした。それ以来、Hondaが開発する以上、街に馴染み、人に受け入れてもらえる姿でなければいけないと考えています。

世界共通の価値観に応えることができる 「Honda歩行アシスト」

製品の性格上、使用方法やメンテナンスが非常に重要になるため、法人や施設を対象としたリース販売にてご提供させていただいており、現在のリース台数は百数十台です。Hondaと各施設双方にとって新たな分野の製品になりますので、機器の定期点検や施設の担当者を対象とした実機講習会の実施などフォローアップをさせていただきながら、より良い製品としていくためのご意見をいただいております。

今後も、Honda歩行アシストの持つ可能性や特性についてご理解いただきながら、理学療法士とともに装着者の歩行をサポートしていく体制を盤石化することで、事業の拡大も図ってまいりたいと考えております。

また、自分の脚で歩き続けたいという想いは、世界共通の普遍的価値観です。その価値観をサポートする製品として、ニーズは全世界にあると考えており、各国への働きかけを始めています。認証の獲得など綿密な計画のもと、自らの脚で歩き続ける喜びを世界中の方へ届けてまいります。



本田技研工業株式会社 汎用パワープロダクツ事業本部
事業管理室 歩行アシスト推進ブロック 伊藤寿弘

理想的な歩行へとサポートしていくことで 負担の少ない歩き方へと導いていく。

一般的に、10mを12.5秒以下で歩けると、信号が青の間に道路を渡り切れるとされています。これが、自宅の外を生活圏にできるかどうかの目安の1つです。一度歩行に支障をきたすと一気に生活圏が狭くなり、さらに歩行習慣がなくなり筋力低下が進むという悪循環が生まれてしまいます。

また、片方の脚を引きずるなどの左右差のある歩き方を続けていると、膝や腰を痛めてしまったり他の問題が出てくることも少なくありません。そういったトラブルを防ぐためには、単に「歩くこと」を目標にするのではなく、「必要な筋力を適切に使った、理想的なフォームの歩行」を目標にする必要があります。

Honda歩行アシストが行うのは、身体に負担の少ない「理想的なフォーム」で歩行するためのサポートです。

モーターに内蔵された角度センサーが歩行時の股関節の動きを検知し、制御コンピューターがモーターを駆動することで、脚を振り出す際や地面を蹴り出す際に、最大でその5%ほどの力で補助とタイミングの補正を行います。

繰り返し装着することでその歩行フォームを身体が記憶し、装着していないときにも歩行効率のよい楽な歩き方ができるようになるため、結果的に歩行スピードと歩行距離も向上していきます。それは、感覚がない

まま脚を動かしている下肢に麻痺がある方も例外ではありません。

アシストのモードは3種類のなかから装着者の歩行能力に応じて選択でき、タブレットでは脚の振り出しの角度や一歩にかかる時間などを確認することも可能です。



具体的な数字を基に効果の比較ができるので装着者の訓練のモチベーションにつながるほか、理学療法士が装着者へアドバイスする際や、リハビリのプログラムを組む際に、客観的な値として判断材料にすることができます。そのデータを検証することで、われわれHondaは機器を発展させていくための知識を蓄えさせていただいております。

現場・現物・現実の三現主義を貫くことで格段に進んだハードとソフトの開発。

Hondaでは三現主義の姿勢を大切にしており、Honda歩行アシストの開発も例外ではありません。

現在の重量は2.7kgですが、開発当初はバッテリーからケーブルで電気を供給する設計で、重量は32kgもありました。機能性に問題がないことがわかると、人が装着できる機器とするために、テーマは小型軽量化へシフト。最も苦労したのが、バッテリーとモーターの小型軽量化です。結果的に、バッテリー技術の向上やモーター専門メーカーと共同開発を行ったことで、目標を達成できました。

そうして重量が3kgまで軽量化できたころ、実際に各施設へ直接うかがい、さまざまな方に装着していただきました。使用する姿を拝見したり装着者の感想をうかがうなかで、身体に麻痺がある方と高齢者の方では制御ソフトに違いが必要であるなど、初めて気が付いたことも多くありました。話をうかがい、気が付いたことを直して、再度施設に持って行く。これまでにない分野への挑戦だったHonda歩行アシストは自分たちで製品に対する評価が一切できなかつたため、



そのサイクルを繰り返すことで、開発を格段に進めることができました。

福祉機器展などでは、試着した高齢者の方の歩行がみるみる改善されていく姿を見ることができ、製品としての手ごたえは確かなものに。また、そうした方々が期待を寄せていること直に感じ、早く製品化したいという想いが強くありました。

より多くの方へ 自らの脚で歩く喜びを提供したい。

歩行にトラブルのある方が装着すると、数百グラムの差が身体への負担に大きく影響します。今後は症状や歩行能力ごとに機能を絞った機器を数種類つくり分けることで、さらに小型軽量化していきたいと考えています。また、実際に装着された方の情報を検証していくことで、装着者の歩行能力に応じてアシストの数値を自動で設定できるようにするなど、ハードとソフトの双方の進化を図ってまいります。

それに加えてもう一つ必要性を感じているのが、より多くの方にご使用いただけるシステムを整えることです。Honda歩行アシストの活用方法は、麻痺などの症状がある方が最終的にHonda歩行アシストなしで歩くことを目的に行う訓練や、高齢者の方や筋ジストロフィーなどにより運動機能が徐々に低下していく方がご自身の脚で歩ける期間を延ばしていくことを期待しての装着があると考えております。

技術的な進化を目指すのはもちろんのことですが、多様な皆様にHonda歩行アシストをご使用いただける仕組みづくりのためにも、各施設へうかがい、知見を集めております。

日本において、高齢者の方や人工股関節の方、脳卒中の後遺症により麻痺が残る方など、Honda歩行アシストの装着対象となる方は約3,000万人いらっしゃるというデータもあります。そういった方が自由な歩行を実現できるよう研究を進め、今後も多くの方に、自らの脚で移動する喜びを提供していくことを目指してまいります。

お客様の声

利用者と作業療法士双方の 活気を生み出す。

医療法人 仁泉会 介護老人保健施設しもだ
施設長 堺秀人様

Honda歩行アシストを活用することで、より効果的なリハビリを行うことができると考え、3台を導入しております。リハビリで装着した方の歩行が非常に良くなっていく姿を見ると、他の利用者も積極的に導入を希望され、これまで以上に活気にあふれてリハビリに取り組みられるようになりました。

また、Honda歩行アシストを使用することで作業療法士たちにも活気が生まれています。今までにない機器ですので、どういった訓練とHonda歩行アシストの訓練を組み合わせれば効率的なのか模索しながらリハビリのプログラムを組んでいます。その効果を数値として確認することができるため、さらに次のプログラムを考案する際に、装着者の様子とデータに真摯に向き合いながら、活発に検討を重ねております。

今後、Honda歩行アシストを使用したリハビリ方法が確立できれば、作業療法士がプログラムを組み、介護士が補助することで、ご自宅など装着者が日常的に過ごしているシチュエーションでのリハビリも可能となると考えております。



リハビリに取り入れ 歩行能力を次のステップへ導く。

社会医療法人社団 熊本丸田会 熊本リハビリテーション病院
リハビリテーション部 技術部長 樋田義美様

シンプルな構造で軽く、一人でも短時間で付け外しができるHonda歩行アシストは、活用の場面が増えると考え、実証実験の段階から導入しております。

歩行訓練の際に適切なタイミングと力で補助できるので、麻痺や人工股関節などの整形疾患がある方のリハビリでは積極的に取り入れております。また、歩行に必要な筋力を効率的に活性化できることから、心臓手術後の息切れなどが起きやすい方へのリハビリに使用すると、身体の負担が減って歩行距離が延びたという例もありました。

これまでは動作からリハビリ内容や効果を判断していましたが、Honda歩行アシストは、股関節の角度波形など詳細なデータを見られるため、そのデータをもとに、療法士同士で意見を交換することもできるようになりました。新しい機器をスムーズに受け入れ、モチベーションを高く持ちながらリハビリに取り組めるかどうかは、理学療法士の説明やアドバイスが適切かどうか大きな要因です。正しい知識を持ったうえで、訓練の一つのツールとして活用していきたいと思っております。



第92回 定時株主総会のご報告



6月16日、東京都港区のホテル グランパシフィック LE DAIBA (ル・ダイバ)において第92回定時株主総会を開催し、当日は1,772名の株主様にご参加いただきました。

はじめに第92期の監査報告と事業報告を行った後、現在および今後の事業活動について、代表取締役社長の八郷隆弘がプレゼンテーションを実施。その後、「剰余金の配当の件」「取締役13名選任の件」「監査役2名選任の件」の3議案を審議し、それぞれ原案の通り可決されました。

プレゼンテーションでは、冒頭で熊本地震とエアバッグに関する説明を行った後、3つの取り組みについて紹介いたしました。1つめは「グローバル6極体制における四輪事業の方向性」について。各地域独自の戦略のもと開発した「地域専用モデル」をさらに成長させるとともに、世界中で販売する「グローバル

モデル」の魅力を高めることで、より強い商品ラインアップを目指していくと説明。次世代に向けた大きなテーマとして、電動車両の普及にも取り組んでいく考えを述べました。

次に、「二酸化炭素排出ゼロ社会への取り組み」として、電動化の推進と、水素社会への取り組み例を紹介。四輪・二輪・汎用製品を手がける世界最大のエンジンメーカーとして、今後も挑戦を続けていく



決意をお話いたしました。

最後に、「事故ゼロ社会への取り組み」として、さまざまな安全運転技術の研究・開発を進めていることを紹介。先進の安全運転支援システム「Honda SENSING」は、今後も日本国内での採用車種を順次拡大していくとともに、グローバルモデルでも積極的に展開していくと述べました。また、自動運転技術の研究・開発を計画的に進めていることもあわせて説明いたしました。

当日、会場ロビーでは、Hondaの二輪・四輪・汎用製品を展示。本格アドベンチャーモデルとして好評の「CRF1000L アフリカツイン」、新型「NSX」、2016年北米カーオブザイヤーを受賞した「シビック セダン」のほか、Hondaの原点ともいえるスーパーカブをベースにした電動二輪車「EV-Cub Concept」や、法人様向けリース販売を開始した歩行訓練機器「Honda歩行アシスト」など、次世代に向けた独自のモビリティの紹介も行いました。また、新型の燃料電池自動車や外部給電器などを展示したブースでは、説明パネルやモニターを設置。Hondaが目指す水素社会に向けた取り組みをご覧いただきました。



(上)電動二輪車「EV-Cub Concept」

(下)燃料電池自動車

「CLARITY FUEL CELL(クラリティ フューエル セル)」



Hondaのホームページで第92回定時株主総会の模様をご覧いただけます
<http://www.irwebcasting.com/20160616/2/78410acab4/mov/main/index.html>

Honda
ホームページ



企業
情報



投資家
情報



株式・
債券情報



株主総会
関連資料



定時株主
総会模様

QRコードから
アクセス!



スマートフォンやタブレットなどから、QRコードを読み取ってアクセスすることもできます。QRコードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。

■ 新製品 & Topics

4月21日 世界初となる新発想の量産車組立用ライン「ARC(アーク)ライン」を開発、タイ四輪工場に導入



車体・部品・作業者がユニットごと移動しながら広範囲の組み付け作業を行う「セル生産方式」を取り入れた革新的なラインを導入。コンベア上の車

体に単一工程で組み付ける従来の「ライン生産方式」に比べ、生産効率の大幅な向上を実現しました。生産台数の変動やレイアウト変更にも柔軟に対応でき、世界中で同構造のラインを導入することで投資コストの削減効果も期待できます。

4月27日 小型4ストローク船外機「BF2」をモデルチェンジし発売



丸みを帯びた親しみやすいデザインに刷新。クラス^{※1}最軽量の扱いやすさ、メンテナンスのしやすさといった特長はそのままに、燃料タンクの容量をクラス最大^{※2}となる1.1Lに拡大することで、航行可能距離を向上。さらに余裕のある快適なクルージングを可能にしています。

※1：4ストローク2馬力船外機。
Honda調べ(2016年3月末現在)
※2：Honda調べ(2016年3月末現在)

4月

21

27

5月

5月26日 新型セダン「ACCORD(アコード)」を発売

デザインや内装をより質感高く磨き上げ、大幅な改良を加えた新型「ACCORD(アコード)」。小型・軽量化した新設計の2モーターハイブリッドシステムが力強い走りと静粛性を高い次元で両立するとともに、優れた燃費性能も発揮します。先進の安全運転支援システム「Honda SENSING(ホンダ センシング)」に加え、助手席側後方の確認を補助する「レーンウォッチ」や、狭い場所での駐車などを助ける「パーキングセンサーシステム」を標準装備。また、高度な信号情報活用運転支援システムにも世界で初めて対応[※]しています。

※Honda調べ(2016年5月現在)



5月26日～27日 G7伊勢志摩サミットに燃料電池自動車「CLARITY FUEL CELL(クラリティフューエルセル)」と自動運転車「AUTOMATED DRIVE(オートメイトドドライブ)」を提供

Hondaは、2016年主要国首脳会議「G7伊勢志摩サミット」にてハイテクやイノベーションなど、日本ならではの魅力を世界に向けて発信するという政府の方針に賛同し、燃料電池自動車と自動運転車を提供しました。また、国際メディアセンター内の日本国政府広報展示スペースでは、次世代に向けたさまざまなモビリティを展示し、Hondaの考えるスマートコミュニティの紹介も行いました。



26

6月

3

16

6月3日 125ccスポーツモデル「グロム」の外観を一新し発売

個性的で躍動感あふれるスタイリングは力強さを増し、よりアグレッシブな印象に。倒立タイプのフロントサス



ペンションや前後輪ディスクブレーキなどの本格装備が、サイズを超えた存在感を演出。フォールディング機能を持ったリトラクタブルキーをHondaの二輪車で初めて採用しています。

6月16日 台湾で四輪車生産累計30万台を達成



2003年の「CR-V」から始まった台湾での生産は、その後「アコード」「シビック」「フィット」「シティ」と車種を拡大してきました。記念すべき30万台目のモデルとしてラインオフを行った「CR-V」は、台湾のSUVセグメントにおいて、累計販売台数首位を獲得しています。

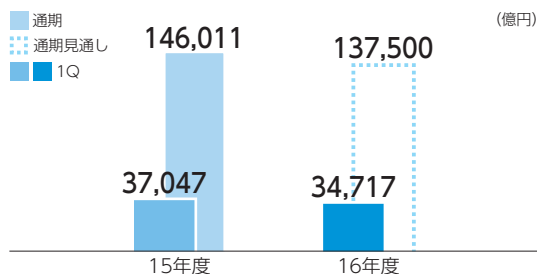
2016年度 第1四半期 連結業績ハイライト

(2016年4月1日～2016年6月30日)

売上収益

四輪事業や二輪事業の連結売上台数の増加などはあったものの、為替換算による売上収益の減少影響などにより減収

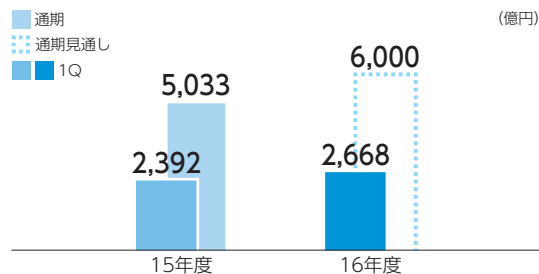
3兆4,717億円 前年同期比 6.3%減 ↓



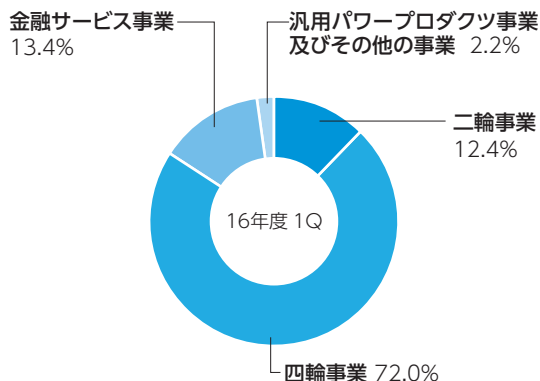
営業利益

為替影響や平成28年（2016年）熊本地震の影響などはあったものの、コストダウン効果、売上変動及び構成差に伴う利益増、品質関連費用を含む販売費及び一般管理費の減少などにより増益

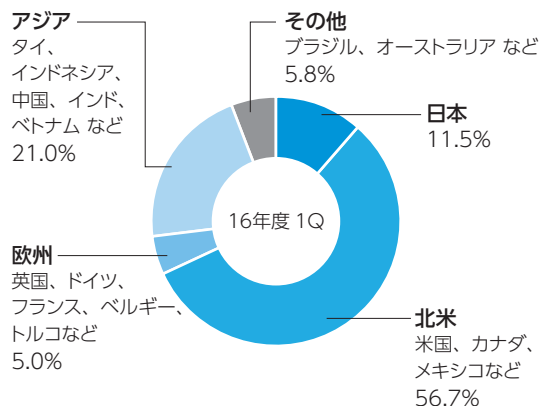
2,668億円 前年同期比 11.5%増 ↑



事業別売上収益構成



仕向地別(外部顧客の所在地別)売上構成



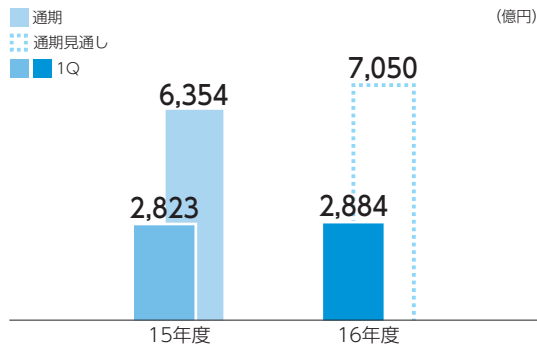
※ 当第1四半期の平均為替レートは1USドル=108円(前年同期 121円)です。

※ 業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。

※ 見通しの為替レートは、通期平均で1米ドル=105円を前提としています。

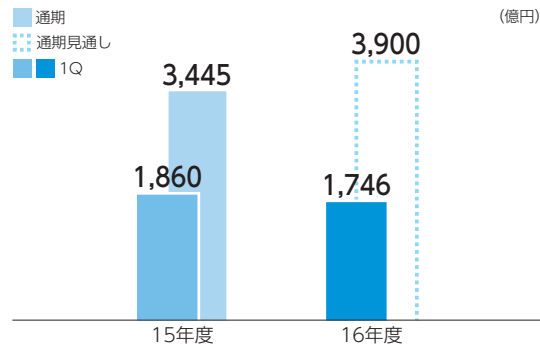
税引前利益

2,884 億円 前年同期比 2.2%増 ↗



親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益

1,746 億円 前年同期比 6.1%減 ↘



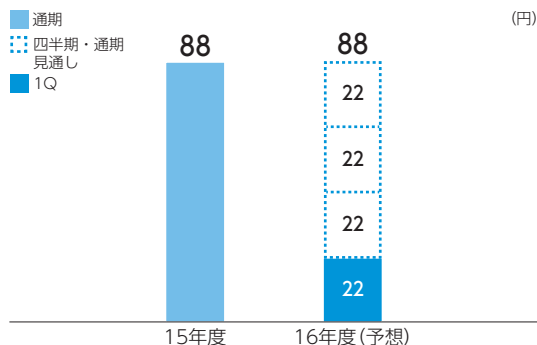
四半期包括利益

15年度1Q 2,941億円

16年度1Q △2,357億円

配当金

22 円



当社IRサイトで第1四半期決算説明会の資料を掲載しています

機関投資家向けに2016年8月2日に開催した、第1四半期決算説明会の説明会資料、参考資料などを掲載しております。本冊子と合わせてご参照ください。

Honda投資家情報サイト

[IR資料室]

[決算説明会資料]



<http://www.honda.co.jp/investors/library/presentation/>

事業の種類別セグメントの状況

二輪事業



売上収益

4,324億円

前年同期比 8.5%減 ↓

営業利益

311億円

前年同期比 43.9%減 ↓

売上収益

(億円)

4,727

4,324

15年度 1Q
16年度 1Q

営業利益

(億円)

555

311

15年度 1Q
16年度 1Q

二輪事業の外部顧客への売上収益は、連結売上台数の増加などはあったものの、為替換算による売上収益の減少影響などにより、4,324億円と前年同期にくらべ8.5%の減収となりました。営業利益は、コストダウン効果などはあったものの、平成28年（2016年）熊本地震の影響を含む台数変動及び構成差に伴う利益減や為替影響などにより、311億円と前年同期にくらべ43.9%の減益となりました。

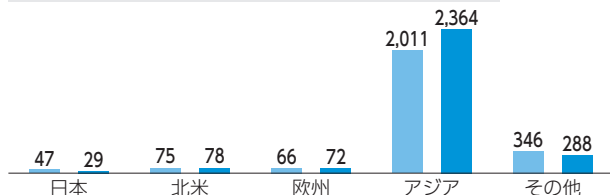
連結売上台数

(千台)

2,831千台

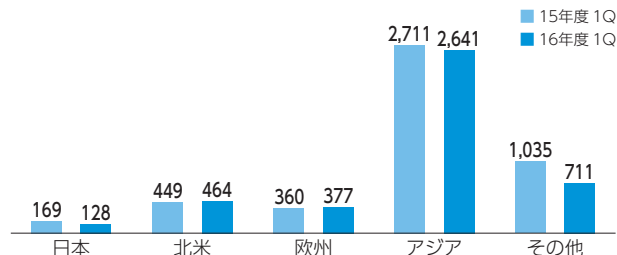
前年同期比 11.2%増 ↑

■ 15年度 1Q
■ 16年度 1Q



仕向地別(外部顧客の所在地別)売上収益

(億円)



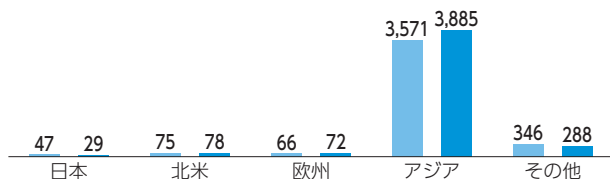
Honda グループ販売台数

(千台)

4,352千台

前年同期比 6.0%増 ↑

■ 15年度 1Q
■ 16年度 1Q



※ Hondaグループ販売台数は、当社および連結子会社、ならびに持分法適用会社の完成車販売台数です。連結売上台数は、当社および連結子会社の完成車販売台数です。

四輪事業



売上収益

2兆4,989億円

前年同期比 6.6%減 ↓

営業利益

1,845億円

前年同期比 41.1%増 ↑

売上収益

26,758

(億円)

24,989

15年度
1Q

16年度
1Q

営業利益

1,307

(億円)

1,845

15年度
1Q

16年度
1Q

四輪事業の外部顧客への売上収益は、連結売上台数の増加などはあったものの、為替換算による売上収益の減少影響などにより、2兆4,989億円と前年同期にくらべ6.6%の減収となりました。営業利益は、為替影響などはあったものの、台数変動及び構成差に伴う利益増、品質関連費用を含む販売費及び一般管理費の減少、コストダウン効果などにより、1,845億円と前年同期にくらべ41.1%の増益となりました。

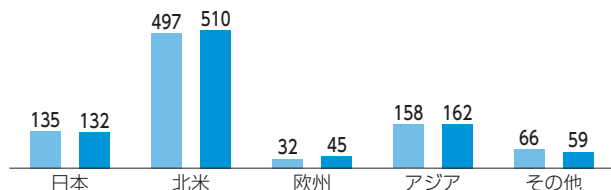
連結売上台数

(千台)

908千台

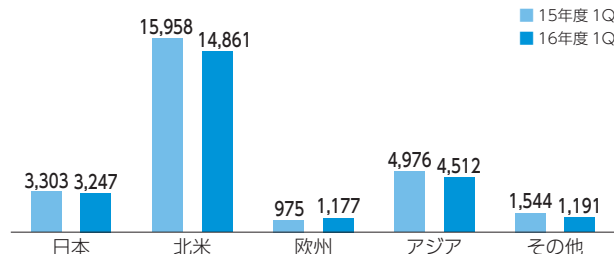
前年同期比 2.3%増 ↑

■ 15年度 1Q
■ 16年度 1Q



仕向地別(外部顧客の所在地別)売上収益

(億円)



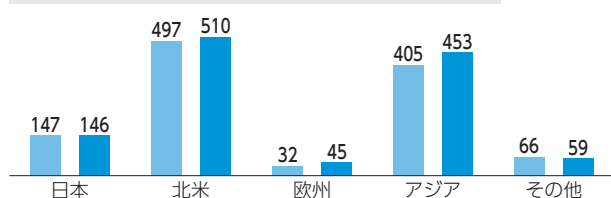
Honda グループ販売台数

(千台)

1,213千台

前年同期比 5.8%増 ↑

■ 15年度 1Q
■ 16年度 1Q



※ Hondaグループ販売台数は、当社および連結子会社、ならびに持分法適用会社の完成車販売台数です。連結売上台数は、当社および連結子会社の完成車販売台数です。

■ 事業の種類別セグメントの状況

汎用パワープロダクツ事業及びその他の事業



売上収益

756億円

前年同期比 8.3%減 ▼

営業利益

5億円

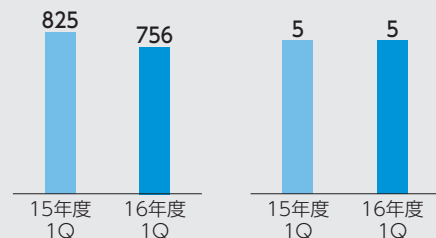
前年同期比 2.9%増 ▲

売上収益

(億円)

営業利益

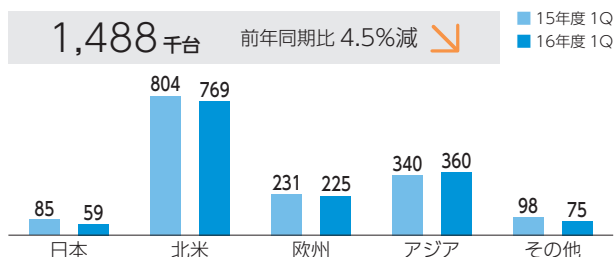
(億円)



汎用パワープロダクツ事業及びその他の事業の外部顧客への売上収益は、汎用パワープロダクツ事業の連結売上台数の減少などにより、756億円と前年同期にくらべ8.3%の減収となりました。営業利益は、台数変動及び構成差に伴う利益減などはあったものの、その他の事業に関する費用の減少などにより、5億円と前年同期にくらべ2.9%の増益となりました。なお、汎用パワープロダクツ事業及びその他の事業に含まれる航空機および航空機エンジンの営業損失は、88億円と前年同期にくらべ32億円の改善となりました。

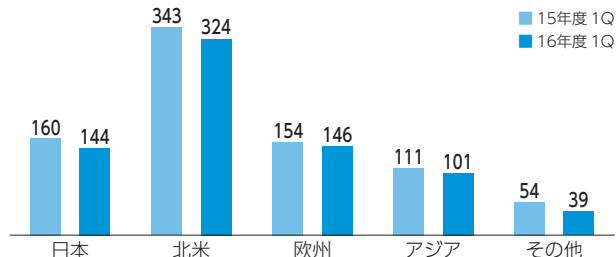
連結売上台数

(千台)



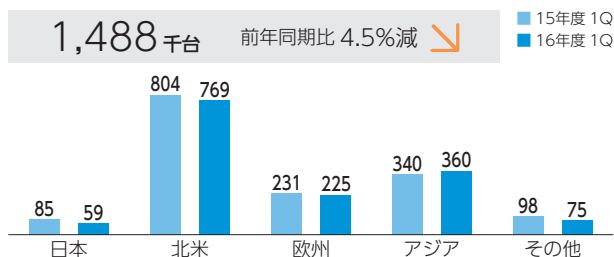
仕向地別(外部顧客の所在地別)売上収益

(億円)



Honda グループ販売台数

(千台)



※ Hondaグループ販売台数は、当社および連結子会社、ならびに持分法適用会社の汎用パワープロダクツ販売台数です。連結売上台数は、当社および連結子会社の汎用パワープロダクツ販売台数です。

金融サービス事業



売上収益

4,646億円

前年同期比 1.9%減 ↓

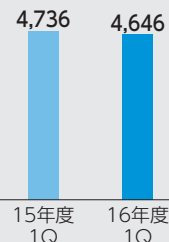
営業利益

505億円

前年同期比 3.6%減 ↓

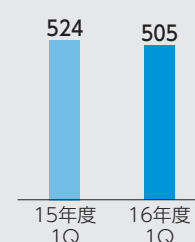
売上収益

(億円)



営業利益

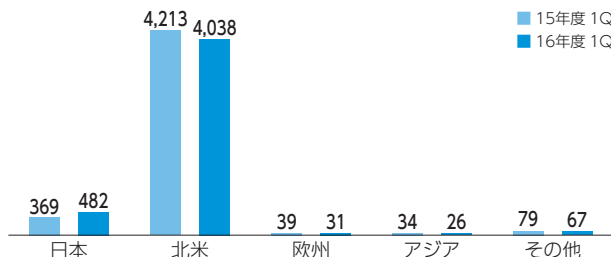
(億円)



金融サービス事業の外部顧客への売上収益は、オペレーティング・リース売上の増加などはあったものの、為替換算による売上収益の減少影響などにより、4,646億円と前年同期にくらべ1.9%の減収となりました。営業利益は、為替影響などにより、505億円と前年同期にくらべ3.6%の減益となりました。

仕向地別 (外部顧客の所在地別) 売上収益

(億円)



詳細な財務情報等につきましてはIRサイトをご参照ください

インターネット上にIRに関するウェブサイトを開設し、最新の決算情報やアニュアルレポートをはじめとするさまざまな情報をご案内しています。

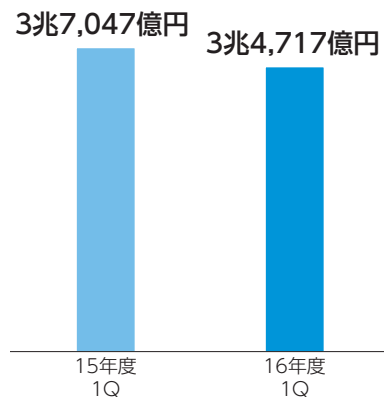
- 決算報告書
- FORM 20-F
- 電子公告
- 決算説明会資料
- FORM SD / Conflict Minerals Report
- 証券取引所提出資料
- 有価証券報告書／四半期報告書等
- 株主通信・事業報告書
- 生産・販売・輸出 月次データ
- アニュアルレポート
- IRロードショー資料
- etc.

[日本語] <http://www.honda.co.jp/investors/>

[英語] <http://world.honda.com/investors/>

■ 所在地別セグメントの状況

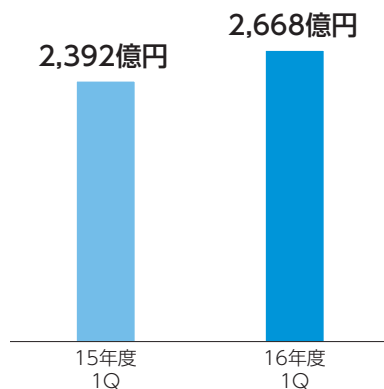
売上収益



所在地	16年度 1Q 売上収益	前年同期比
日本	9,056億円	1.2%減 ↓
北米	2兆688億円	5.6%減 ↓
欧州	1,829億円	7.1%増 ↑
アジア	8,312億円	7.5%減 ↓
その他	1,728億円	28.2%減 ↓

※ 所在地別の売上収益は、外部顧客および他セグメントへの売上収益を含めて表示しています。

営業利益



所在地	16年度 1Q 営業利益	前年同期比
日本	△197億円	475億円減 ↓
北米	1,712億円	622億円増 ↑
欧州	12億円	22億円増 ↑
アジア	903億円	52億円減 ↓
その他	143億円	98億円増 ↑

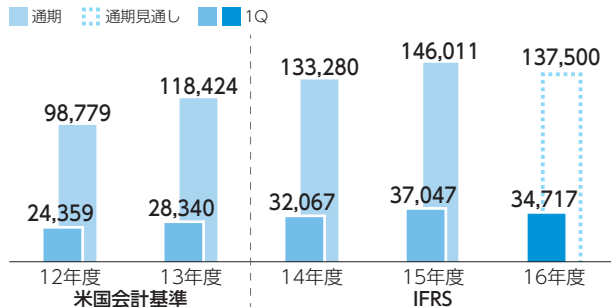
北米：米国、カナダ、メキシコ など 欧州：英国、ドイツ、フランス、ベルギー、トルコ など アジア：タイ、インドネシア、中国、インド、ベトナム など
 その他：ブラジル、オーストラリア など

業績の推移(5ヶ年)

売上収益

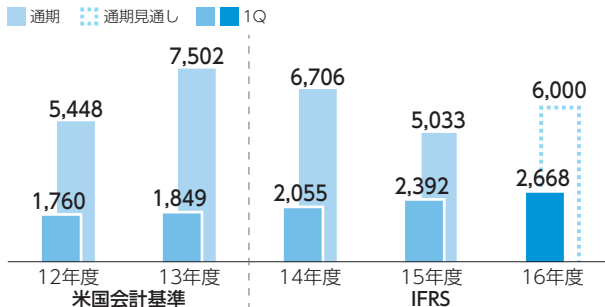
(億円)

※ 12年度～13年度は、米国会計基準に基づいた「売上高及びその他の営業収入」を記載しております。



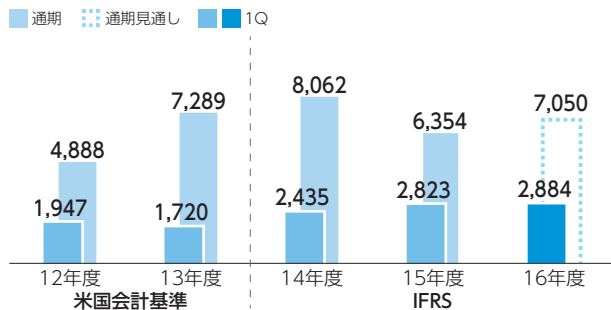
営業利益

(億円)



税引前利益

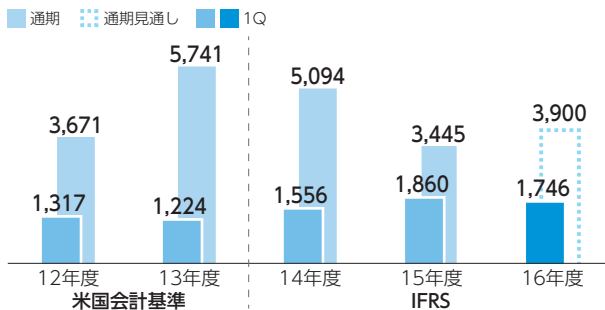
(億円)



親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益

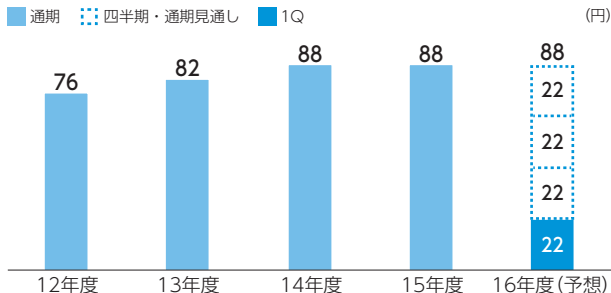
(億円)

※ 12年度～13年度は、米国会計基準に基づいた「当社株主に帰属する四半期(当期)純利益」を記載しております。



配当金の推移

当社は、2016年8月2日開催の取締役会において、2016年6月30日を基準日とした当第1四半期末配当金を、1株当たり22円とすることを決議いたしました。また、年間配当金の予想につきましては、1株当たり88円としています。



要約四半期連結財務諸表の概要

要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

科目	前連結会計 年度末 2016年3月31日	当第1四半期 連結会計期間末 2016年6月30日
(資産の部)		
流動資産		
現金及び現金同等物	1,757,456	1,672,807
営業債権	826,714	687,933
金融サービスに係る債権	1,926,014	1,765,348
その他の金融資産	103,035	93,895
棚卸資産	1,313,292	1,230,618
その他の流動資産	315,115	300,225
流動資産合計	6,241,626	5,750,826
非流動資産		
持分法で会計処理されて いる投資	593,002	569,617
金融サービスに係る債権	3,082,054	2,829,292
その他の金融資産	335,203	313,548
オペレーティング・リース 資産	3,678,111	3,555,648
有形固定資産	3,139,564	2,964,969
無形資産	824,939	806,543
繰延税金資産	180,828	175,727
その他の非流動資産	153,967	136,491
非流動資産合計	11,987,668	11,351,835
資産合計	18,229,294	17,102,661

(単位：百万円)

科目	前連結会計 年度末 2016年3月31日	当第1四半期 連結会計期間末 2016年6月30日
(負債及び資本の部)		
流動負債		
営業債務	1,128,041	941,063
資金調達に係る債務	2,789,620	2,784,142
未払費用	384,614	335,296
その他の金融負債	89,809	108,154
未払法人所得税	45,872	44,643
引当金	513,232	504,783
その他の流動負債	519,163	453,848
流動負債合計	5,470,351	5,171,929
非流動負債		
資金調達に係る債務	3,736,628	3,350,694
その他の金融負債	47,755	45,545
退職給付に係る負債	660,279	635,412
引当金	264,978	190,195
繰延税金負債	789,830	767,962
その他の非流動負債	227,685	213,993
非流動負債合計	5,727,155	5,203,801
負債合計	11,197,506	10,375,730
資本		
資本金	86,067	86,067
資本剰余金	171,118	171,118
自己株式	△26,178	△26,181
利益剰余金	6,194,311	6,334,667
その他の資本の構成要素	336,115	△68,688
親会社の所有者に 帰属する持分合計	6,761,433	6,496,983
非支配持分	270,355	229,948
資本合計	7,031,788	6,726,931
負債及び資本合計	18,229,294	17,102,661

要約四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間
	自 2015年 4月 1日 至 2015年 6月30日	自 2016年 4月 1日 至 2016年 6月30日
売上収益	3,704,762	3,471,730
営業費用		
売上原価	△2,885,646	△2,677,660
販売費及び一般管理費	△434,488	△361,663
研究開発費	△145,342	△165,564
営業費用合計	△3,465,476	△3,204,887
営業利益	239,286	266,843
持分法による投資利益	38,315	27,222
金融収益及び金融費用		
受取利息	7,792	7,440
支払利息	△4,825	△3,092
その他(純額)	1,759	△9,921
金融収益及び 金融費用合計	4,726	△5,573
税引前利益	282,327	288,492
法人所得税費用	△78,451	△98,626
四半期利益	203,876	189,866
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	186,037	174,699
非支配持分	17,839	15,167

要約四半期連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間
	自 2015年 4月 1日 至 2015年 6月30日	自 2016年 4月 1日 至 2016年 6月30日
四半期利益	203,876	189,866
その他の包括利益(税引後)		
純損益に振り替えられる ことのない項目		
確定給付制度の再測定	—	—
その他の包括利益を 通じて公正価値で 測定する金融資産の 公正価値の純変動	2,578	△10,921
持分法適用会社の その他の包括利益に 対する持分	364	△2,084
純損益に振り替えられる 可能性のある項目		
在外営業活動体の 為替換算差額	79,612	△376,380
持分法適用会社の その他の包括利益に 対する持分	7,716	△36,264
その他の包括利益(税引 後)合計	90,270	△425,649
四半期包括利益	294,146	△235,783
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	276,033	△224,797
非支配持分	18,113	△10,986

要約四半期連結財務諸表の概要

要約四半期連結持分変動計算書

(単位：百万円)

前第1四半期連結累計期間 自 2015年 4月 1日 至 2015年 6月30日	親会社の所有者に帰属する持分						非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本 の構成要素	合計		
2015年 4月 1日残高	86,067	171,118	△26,165	6,083,573	794,034	7,108,627	274,194	7,382,821
四半期包括利益								
四半期利益				186,037		186,037	17,839	203,876
その他の包括利益(税引後)					89,996	89,996	274	90,270
四半期包括利益合計				186,037	89,996	276,033	18,113	294,146
利益剰余金への振替				79	△79	—		—
所有者との取引等								
配当金の支払額				△39,650		△39,650	△26,812	△66,462
自己株式の取得			△5			△5		△5
資本取引及びその他							△2,600	△2,600
所有者との取引等合計			△5	△39,650		△39,655	△29,412	△69,067
2015年 6月30日残高	86,067	171,118	△26,170	6,230,039	883,951	7,345,005	262,895	7,607,900

(単位：百万円)

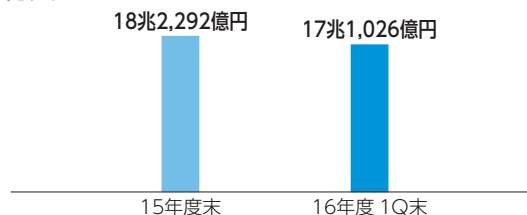
当第1四半期連結累計期間 自 2016年 4月 1日 至 2016年 6月30日	親会社の所有者に帰属する持分						非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本 の構成要素	合計		
2016年 4月 1日残高	86,067	171,118	△26,178	6,194,311	336,115	6,761,433	270,355	7,031,788
四半期包括利益								
四半期利益				174,699		174,699	15,167	189,866
その他の包括利益(税引後)					△399,496	△399,496	△26,153	△425,649
四半期包括利益合計				174,699	△399,496	△224,797	△10,986	△235,783
利益剰余金への振替				5,307	△5,307	—		—
所有者との取引等								
配当金の支払額				△39,650		△39,650	△29,421	△69,071
自己株式の取得			△3			△3		△3
資本取引及びその他								
所有者との取引等合計			△3	△39,650		△39,653	△29,421	△69,074
2016年 6月30日残高	86,067	171,118	△26,181	6,334,667	△68,688	6,496,983	229,948	6,726,931

要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

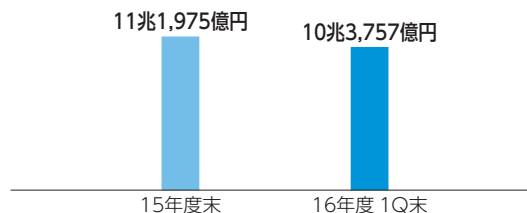
科 目	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間
	自 2015年 4月 1日 至 2015年 6月30日	自 2016年 4月 1日 至 2016年 6月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	415,896	171,386
投資活動による キャッシュ・フロー	△243,712	△182,020
財務活動による キャッシュ・フロー	△11,601	52,717
為替変動による現金及び 現金同等物への影響額	18,620	△126,732
現金及び現金同等物の 純増減額	179,203	△84,649
現金及び現金同等物の 期首残高	1,471,730	1,757,456
現金及び現金同等物の 四半期末残高	1,650,933	1,672,807

■ 連結財政状況

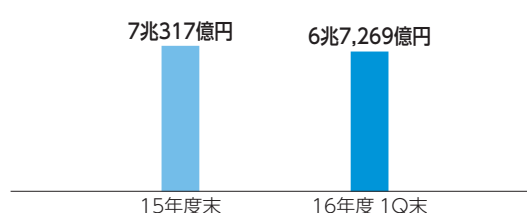
総資産



負債合計

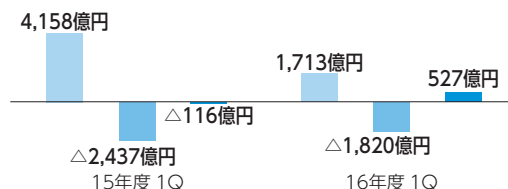


資本合計



連結キャッシュ・フローの状況

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー ■ 投資活動によるキャッシュ・フロー
■ 財務活動によるキャッシュ・フロー



株主様へのお知らせ

株主優待制度を変更しました

当社は株主様からお寄せいただいたご意見をもとに、今年度より以下の通り株主優待制度を変更することといたしましたので、お知らせ申し上げます。

■ 今後の株主優待のスケジュール

ご案内の時期	優待の対象となる株主様	ご案内の内容
2016年 8月後半	6月末時点で100株以上 ご所有されている株主様	Honda カレンダー 応募制 詳しくは → P26 工場見学会 応募制 詳しくは → P27 レース・イベントへのご招待 応募制 詳しくは → P28 Enjoy Honda へのご招待* 応募制 NEW ※2016年のみこの時期にも募集します 詳しくは → P29
2016年 11月末～ 12月初旬 ごろ	9月末時点で 3年以上連続で 100株以上ご所有されている株主様	ホンダオリジナルフレーム切手 [52円切手2枚] 詳しくは → P26 長期優待 NEW
2017年 2月末～ 3月初旬 ごろ	12月末時点で 100株以上ご所有されている株主様*	Enjoy Honda へのご招待 応募制 NEW 詳しくは → P29
2017年 6月後半 ごろ	2017年3月末時点で 100株以上ご所有されている株主様	鈴鹿サーキットとツインリンクもてぎの優待券 1 回限り有効

応募制 募集人数を上回るご応募をいただいた場合は、大変申し訳ございませんが抽選とさせていただきます。

※ 2016年9月24日(土)・25日(日)に開催するEnjoy Honda 2016 スポーツランドSUGO及び2016年11月5日(土)・6日(日)に開催するEnjoy Honda 2016 広島市中小企業会館につきましては、**2016年6月末時点で100株以上ご所有されている株主様**が対象となります。

Pick up

2016年度 ホンダオリジナルフレーム切手[52円切手2枚](長期保有)

長期で保有されている株主様へ感謝の気持ちを込めて、新規で実施させていただきます。以下の要件に該当する全株主様にお送りいたします。



対象となる株主様 2016年9月末時点で**3年以上連続**で100株以上ご所有*されている株主様

詳細のご案内 ■ **2016年11月末～12月初旬ごろ発送予定の第2四半期株主通信に同封して発送**いたします。(株主様1名につき、1部・2種類)

お届け先は**2016年9月末時点の株主名簿記載の住所**とさせていただきます。

■ 転居等で住所変更がある場合は下記までご連絡ください。

該当の株主様以外には送付いたしかねますのでご了承ください。

※ 3年以上連続保有の確認は、9月末時点の株主名簿を基準とし、各四半期ごとの株主名簿において同一株主番号で、連続して13回以上記載又は記録された株主様といたします。

※ 「フレーム切手」は日本郵便株式会社の登録商標です。「フレーム切手」は郵便物に貼ってご利用いただけます。

お問い合わせ先：「Honda株主優待係」 電話 **03-6743-3226** (平日9：00～17：00 土・日・祝日を除く)

2017年 Hondaカレンダーのご案内

来年2017年のHondaカレンダー(見開きA3サイズ)をご希望の株主様1名につき1部(1種類)お送りいたします。以下の応募要領をご確認の上、お申し込みください。

※ 写真は見本です。デザインを一部変更する場合がございますのでご了承ください。



表紙(イメージ)



4月(イメージ)

応募方法 同封の応募ハガキをご郵送ください。※一単元(100株)以上保有の株主様が対象です。

応募締切日 **2016年9月16日(金) (当日必着)**

カレンダー発送 ■ 12月上旬頃から順次発送予定です。(株主様1名につき1部・1種類)

お届け先は**2016年6月末時点の株主名簿記載の住所**とさせていただきます。

■ 転居等で住所変更がある場合は下記までご連絡ください。

2016年Hondaカレンダーにご応募いただきました株主様で株主番号が同一かつ2016年6月末時点で100株以上ご所有されている株主様は、お申し込みいただかなくてもカレンダーを送付いたします。

該当の株主様以外には送付いたしかねますのでご了承ください。

お問い合わせ先：「Hondaカレンダー」係 電話 **03-6743-3226** (平日9：00～17：00 土・日・祝日を除く)

株主様へのお知らせ

2016年度 株主様ご視察会 ～ ① 工場見学会のご案内

株主の皆様にはHondaの事業活動をより一層ご理解いただきたく、工場見学会を開催しております。

参加をご希望される株主様は、以下の内容をご確認の上、お申し込みください。

開催場所	開催日・記号	時間	募集人数	生産品目・アクセス
鈴鹿製作所 (三重県鈴鹿市)	2016年 11/9(水) D E 11/10(木) F G	午前の部 9:00～11:15頃 午後の部 13:30～16:00頃	午前の部 各80名様 午後の部 各160名様	生産品目: 四輪車 Nシリーズ等 最寄駅: 近鉄名古屋線「白子駅」送迎バス有り。 鈴鹿サーキットに駐車場用意
ホンダ太陽(株) (大分県速見郡日出町)	2016年 11/24(木) H 11/25(金) I	13:30～15:30頃	各50名様	生産品目: 部品製造(四輪車・二輪車・汎用製品) 最寄駅: JR日豊線「暘谷駅」送迎バス有り。
埼玉製作所 寄居工場 (埼玉県大里郡寄居町)	2016年 12/6(火) J 12/7(水) K	13:30～15:45頃	各100名様	生産品目: 四輪車 フィット等 最寄駅: 東武東上線・JR八高線「小川町駅」 送迎バス有り。寄居工場ウエルカムセン ター前に駐車場用意

- ※ 一単元(100株)以上保有の株主様が対象です。
- ※ 募集人数を上回るご応募があった場合、抽選とさせていただきます。
- ※ 毎年多数の応募があるため、応募は1コース・参加は原則として株主様ご本人のみとさせていただきます。
- ※ 各製作所または最寄駅までの交通費は株主様ご本人負担とさせていただきます。

- 応募方法**
- ①同封の応募ハガキ(レース・イベント招待、Enjoy Hondaと共用)に、参加ご希望の工場見学会の記号(D～K)のいずれか1つに○をつけてご郵送ください。少しでも多くの方をご招待するため、**レース・イベント招待、Enjoy Hondaとの同時応募はできません。**
 - ②連絡先のお電話番号をご記入いただき、個人情報保護シールを貼付の上、ご郵送ください。
ご記入いただいた電話番号はご視察会以外の目的では使用いたしません。

応募締切日 **2016年9月7日(水) (当日必着)**

- 当選時の詳細のご案内
- 抽選結果は当選者へのご案内の発送をもってかえさせていただきます。
発送は10月中旬～下旬頃を予定しています。
 - お届け先は**2016年6月末時点の株主名簿記載の住所**とさせていただきます。
転居等で住所変更がある場合は下記までご連絡ください。
 - 該当の株主様以外には送付いたしかねますのでご了承ください。

お問合せ先: 「Honda株主様ご視察会」係 電話 **03-6743-3226** (平日9:00～17:00 土・日・祝日を除く)

2016年度 株主様ご視察会 ～ ② レース・イベントへのご招待

株主の皆様の日頃のご支援に感謝をこめて、本年10～11月に開催される以下のレース・イベント(いずれか1つ)へご招待いたします。チケットをご希望される株主様は、以下の内容をご確認の上、お申し込みください。

レース・イベント名称	レース・イベント概要(関連リンク)	開催日	開催場所	募集人数
2016年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 最終戦 第15回JAF鈴鹿グランプリ	オープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レース。エンジンは排気量2,000cc直4直噴ターボエンジン。 http://www.suzukacircuit.jp/superformula/	2016年 10月29日(土)予選 30日(日)決勝	鈴鹿サーキット	4,000組 8,000名 ※大人2名、 他に高校生 以下3名まで 入場無料
2016 MFJ全日本ロードレース選手権 シリーズ 最終戦 第48回 MFJグランプリ スーパーバイクレースin鈴鹿	国内最高峰のオートバイ・ロードレースJSB1000(国内外の最新型1リッタースーパーバイク)を最高峰に、600ccのJ-GP2など合計4クラス開催。 http://www.suzukacircuit.jp/supersuperbike_s/	2016年 11月5日(土)予選 6日(日)決勝		
SUZUKA Sound of ENGINE 2016	モータースポーツの歴史を彩った選手やマシンにスポットを当て、レースとは違う形でモータースポーツを楽しんでいただくイベント。 http://www.suzukacircuit.jp/soundofengine/	2016年 11月19日(土)・ 20日(日)		
2016 AUTOBACS SUPER GT Round8 MOTEGI GT GRAND FINAL	国内最高峰のツーリングカーレース。エンジンパワーが約500馬力のGT500クラスと約300馬力のGT300クラスで競う。今年は土日で決勝を2レース開催。 http://www.twinring.jp/supergt_m/	2016年 11月12日(土)・ 13日(日)	ツインリンク もてぎ	

- ※ 一単元(100株)以上保有の株主様が対象です。
- ※ 募集人数を上回るご応募があった場合、抽選とさせていただきます。
- ※ 上記4つのうち、いずれか1つを選んで観戦できます。
- ※ 各会場までの交通費・各会場の駐車料金は株主様ご本人負担とさせていただきます。

- 応募方法** ①同封の応募ハガキ(工場見学会、Enjoy Hondaと共用)の「レース・イベント招待」(C)に○をつけてご郵送ください。少しでも多くの方をご招待するため、**工場見学会、Enjoy Honda との同時応募はできません。**
- ②連絡先のお電話番号をご記入いただき、個人情報保護シールを貼付の上、ご郵送ください。
ご記入いただいた電話番号はご視察会以外の目的では使用いたしません。

応募締切日 **2016年9月7日(水) (当日必着)**

- 当選時の
詳細のご案内
- 抽選結果は当選者へのご案内の発送をもってかえさせていただきます。
発送は10月上旬頃を予定しています。
 - お届け先は**2016年6月末時点の株主名簿記載の住所**とさせていただきます。
転居等で住所変更がある場合は下記までご連絡ください。
 - 該当の株主様以外には送付いたしかねますのでご了承ください。

お問合せ先：「Honda株主様ご視察会」係 電話 **03-6743-3226** (平日9:00～17:00 土・日・祝日を除く)

株主様へのお知らせ

2016年度 株主様ご視察会 ～ ③ Enjoy Honda へのご招待

Enjoy Hondaは、Hondaのモータースポーツやバイク、クルマ、汎用製品といったモビリティの魅力をフル体験できる、ファンの皆様への感謝イベントです。以下の応募要領をご確認の上、お申し込みください。



※ 2016年12月末時点で100株以上ご所有されている株主様には別途2017年開催分の2017年2月末～3月初旬ごろにご案内させていただきます。

イベント名称	イベント概要 (関連リンク)	開催日・記号	開催場所	募集人数
Enjoy Honda 2016 スポーツランドSUGO	[全日本スーパーフォーミュラ選手権 シリーズ第6戦]と併催! モータースポーツの魅力とHondaのモビリティの魅力を体感できるプログラムをご用意。 http://www.honda.co.jp/enjoyhonda/sugo/2016/	2016年 9月24日(土)・ 25日(日) A	スポーツランド SUGO(宮城県 柴田郡村田町)	各300組 1,200名様 ※高校生以上の大人4名、 中学生以下のお子様は 大人同伴に限り、何人 でも無料で入場可。
Enjoy Honda 2016 広島市中小企業会館	F1、MotoGPなどレースマシンの展示や、Hondaのモビリティの魅力を体感できる多彩なプログラムをご用意。お子様から大人までお楽しみいただけます。 http://www.honda.co.jp/enjoyhonda/hiroshima/2016/ (※9/2公開予定)	2016年 11月5日(土)・ 6日(日) B	広島市中小企業 会館(広島県広 島市)	

- ※ 一単元(100株)以上保有の株主様が対象です。
- ※ 募集人数を上回るご応募があった場合、抽選とさせていただきます。
- ※ 応募は**いずれか1つ**とさせていただきます。
- ※ 各会場までの交通費・各会場の駐車料金は株主様ご本人負担とさせていただきます。

- 応募方法** ①同封の応募ハガキ(工場見学会、レース・イベント招待と共用)に、参加ご希望のイベントの記号(A～B)のいずれか1つに○をつけてご郵送ください。少しでも多くの方をご招待するため、**工場見学会、レース・イベント招待との同時応募はできません**。※一単元(100株)以上保有の株主様が対象です。
- ②連絡先のお電話番号をご記入いただき、個人情報保護シールを貼付の上、ご郵送ください。ご記入いただいた電話番号はご視察会以外の目的では使用いたしません。

応募締切日 **2016年9月7日(水) (当日必着)**

- 当選時の詳細のご案内
- 抽選結果は当選者へのご案内の発送をもってかえさせていただきます。**発送は9月上旬～下旬頃を予定**しています。
 - お届け先は**2016年6月末時点の株主名簿記載の住所**とさせていただきます。転居等で住所変更がある場合は下記までご連絡ください。
 - 該当の株主様以外には送付いたしかねますのでご了承ください。

※ 2017年開催分のEnjoy Hondaにつきましては、2016年12月末時点で100株以上ご所有されている株主様が対象となります。

お問合せ先: 「Honda株主様ご視察会」係 電話 **03-6743-3226** (平日9:00～17:00 土・日・祝日を除く)

■ 会社概要 / 株式の状況 (2016年6月30日現在)

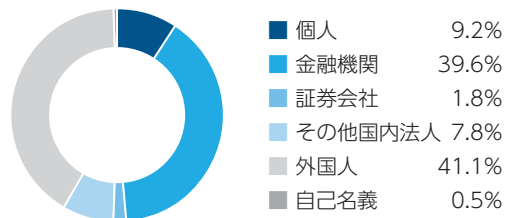
会社概要

社名	本田技研工業株式会社	設立年月日	1948年(昭和23年)9月24日
英文社名	HONDA MOTOR CO., LTD.	資本金	86,067,161,855円
本社	東京都港区南青山二丁目1番1号(〒107-8556)	主な製品	二輪車・四輪車・汎用パワープロダクト

株式の状況

発行済株式の総数 1,811,428,430 株
株主数 203,460 名

株式の所有者別分布状況



大株主

氏名または名称	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	117,977	6.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	75,965	4.2
モックスレイ・アンド・カンパニー・エルエルシー	75,120	4.1
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー-505223	57,264	3.1
明治安田生命保険相互会社	51,199	2.8
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	45,618	2.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	40,479	2.2
東京海上日動火災保険株式会社	39,894	2.2
株式会社三菱東京UFJ銀行	36,686	2.0
ザバンク オブ ニューヨーク メロン エスエーエヌバイ 10	28,178	1.5

- (注) 1. 株数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 出資比率は、発行済株式の総数から自己株式(9,145千株)を控除して算出してあります。
3. モックスレイ・アンド・カンパニー・エルエルシーは、ADR(米国預託証券)の預託機関であるジェーピー モルガン チェース バンクの株式名義人です。

株式事務のご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 第1四半期末配当 毎年6月30日 第2四半期末配当 毎年9月30日 第3四半期末配当 毎年12月31日
上場証券取引所	国内：東京証券取引所 海外：ニューヨーク証券取引所
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 (特別口座の口座管理機関) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031(フリーダイヤル)

公告方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。 [公告掲載 URL] http://www.honda.co.jp/investors/
証券コード	7267

住所変更、配当金のお受け取り方法の
指定・変更、単元未満株式の買取・買増

株主様の口座がある証券会社等にお申し出ください。
※特別口座に株式が記録されている場合は、三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払

三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

☎ 0120-782-031

HONDA

The Power of Dreams

証券コード：7267

株主通信 No.170

本田技研工業株式会社

発行 総務部 SRブロック

〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1

<http://www.honda.co.jp>

表紙の写真：ACCORD

UD FONT

